

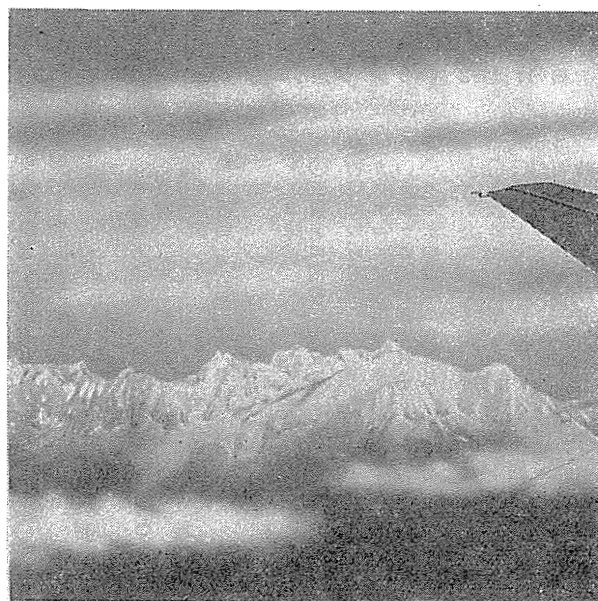
THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, Feb. 28th, 1957. No. 300

關西大學學報

昭和32年2月 第300号

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十三年二月二十八日発行（毎月一回三十日発行）
通巻第三〇〇号



アルプスを越えて(岩崎学長撮影)

關西大學學報局

仕事と事物詩 最上 宏信

金沢大学法文学部論集(文学篇) 第二号 昭三12

Regulam. 1909.

鎮魂歌 大山定一 昭三4

○リルケ選集(新潮社) II 昭三4 (研 究)

リルケの芸術精神―二つの「鎮魂曲」 塚越 敏

ドイツ文学 第四号 昭三5

リルケの「鎮魂歌」におけるテーマ―よりよき理解のために 同 上

(神奈川県)人文研究 第三集 昭三6

ある閩秀画家の死―リルケ「ある女友達のためのレクイエム」解説 竹内 豊治

経済系(関東学院)第一五号 昭三3

若き詩人の自殺―リルケ「ゾルフ・フォン・カクロイト伯のための鎮魂曲」に関して 同 上

経済系(関東学院)第七輯 昭三10

山中雑記 堀 辰雄 昭二12

〔ある女友達のための……〕 文芸懇話会 昭二7

○雉子日記(河出) 山の宿 昭二7

○風立ちぬ(角川) 鎮魂曲 昭三11

○堀辰雄全集 第四卷 同上 昭三9

Das Marien-Leben. 1913. マリアの生涯 手塚 富雄 昭元4

○リルケ選集(新潮社) II 昭元4 Duineser Elegien. 1923. ドイノの悲歌 芳賀 檀 昭三11

第四の悲歌(ドイノの悲歌) 同 上 昭三3

○ドイノの悲歌 同 上 昭三3

ぐるりあ・そそえて―一巻 昭三3

創元社 二〇、翌頁 新書判 昭三9

○リルケ選集(新潮社) II 昭元4

○ドワイノ―悲歌 浅井真男 昭三2

筑摩書房 三六頁 A5 昭三2

ドワイノの悲歌 神品 芳夫 昭三5

形成

ドワイノの悲歌 手塚 富雄 昭三6

○世界文学全集(河出書房) 14 昭三6 (研 究)

「ドワイノ悲歌」の成立 浅井 真男

○ドワイノ―悲歌(筑摩書房) 昭元2

ドワイノの悲歌―詩人の深い内部 石中 象治

エルンテ 第七卷三号 昭三8

ドワイノの悲歌序 糸満 盛夫

滋賀大学文学部紀要 第五号 昭三2

リルケの「ゾイノの悲歌」に就いて 片山 敏彦 昭九4

思想 第一四三号

「ドワイノの哀歌」解釈の基本問題 (覚書)―エルゼ・ブツデベルク 女史の所有より 岸田 晩節 山口大学文学会誌 第一卷一号 昭三3

象徴の形姿―「哀歌」解釈によせるモノグラフィ―(一―一六) 同 上

(大阪市大)人文研究 第二卷 六、一、二号、第三卷一、二号、第四卷七号、第五卷七号、第六卷一、二号 昭三11

R M リルケ、ドワイノ悲歌の問題 小島 衛 昭三1

専修大学論集 第一〇号 昭三1

「ドワイノ悲歌」と「オルフォイス」に捧げるソネット 笹沢 美明 昭三10

○リルケの愛と恐怖 同 昭三10

リルケの「悲歌」第九より 高安 国世

アララギ 第四一巻一、二号 昭三11

Die Fahrender. について―ドワイノ悲歌第五解釈のための覚書 武田 昌一

西京大学学術報告 人文 第六号 昭三8

「ドワイノの悲歌」中の一句中村真一郎 昭三9

展 望 第五七号

「ドワイノの悲歌」の由来 富士川英郎 昭二5

四季 第八号

リルケの「ドワイノの悲歌」 同 昭三10

人文 第一卷第三号

リルケの「ドワイノの悲歌」―一つの註釈 同 上

高 原 第九一〇号 昭二五15

リルケ「ドワイノの悲歌」註釈 同 上

詩 学 第五卷五―八号、第七卷二、三号 昭三7―三2

リルケとピカソ―サルタンパンクの悲歌について 矢内原伊作

―美術批評 第三一―二号 昭元7

ドワイノの悲歌 O・ホイシエーレ、松山武夫 昭二8

エルンテ 第七卷三号 昭二8

Die Sonette an Orpheus. 1923. 別離に先行せよ―オルフォイスに贈るソネットより 片山 敏彦 昭三6

世 代 第七号 昭三6

オルフォイスに捧げるソネット 近代文学 第八卷六七、七号 昭三6―9

○オルフォイスに捧げるソネット 同 上 昭三9

(河出文庫) 二頁 A6 昭三9

オルフォイスを讀へるソネット

○リルケ選集(新潮社) II 昭元4

○オルフォイスのソネット 高安 国世 創元社(創元文庫、リルケ選集 4) 二七頁 昭元5

(研 究)

「オルフォイスに捧げるソネット」に就て或は「オルフォイスの境界」 河原 忠彦

横浜国立大学人文紀要 第二類 一輯 昭三3

「ドワイノ悲歌」と「オルフォイス」に捧げるソネット 笹沢 美明

○リルケの愛と恐怖 同 昭三10

「ユウバリノスとオルフォイス」覚書 高木 研一

(新潟大学)人文科学研究 第四号 昭三12

オルフォイスへの思ひ―リルケのオルフォイス的存在をめぐって 永野 藤夫

望 楼 第三卷九号 昭三9

オルフォイスに捧げるソネット 読書春秋 第四卷一―二号 昭三11

長谷川四郎

Vergers suivi des Quatrains Valaisans. 1926. リルケ四章―「果樹園」より 堀口 大学 昭三6

○果樹園(附、ヴァレエの四行詩) 青磁社 三三頁 A5 B6 昭三12

○果樹園(附、ヴァレエの四行詩) 同 上 昭三12

○果樹園(附、ヴァレエの四行詩) 同 上 昭三12

○果樹園(附、ヴァレエの四行詩) 同 上 昭三12

○果樹園(附、ヴァレエの四行詩) 同 上 昭三12

○果樹園(附、ヴァレエの四行詩) 同 上 昭三12

○果樹園(附、ヴァレエの四行詩) 同 上 昭三12

○果樹園(附、ヴァレエの四行詩) 同 上 昭三12

oder das kleine Weinfahr. 1935.

oder das kleine Weinfahr. 1935.

oder das kleine Weinfahr. 1935.

oder das kleine Weinfahr. 1935.

○葡萄酒の年—リルケ未発表詩集 富士川英郎訳

○純白の幸福(リルケ小説集) 人文書院 三四頁 B 6 昭三7

○愛と死の歌 (角川文庫) 一六頁 A 5 昭三6

○愛と死と祈り(白水社) 菊池 栄一訳 昭三4

○新潮社(一時間文庫)一七頁 昭元12

○現代世界文学全集(新潮社) 昭元1

○愛と死と祈り(白水社) 菊池 栄一訳 昭三4

○愛と死と祈り(白水社) 菊池 栄一訳 昭三4

○ウプリスのスケッチ七篇—或はさき

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○窓 第一号 同 昭三5

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○海之歌 大野 勇二訳 昭三5

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○独語文化 第一卷一号 大野 勇二訳 昭三5

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○スペインの踊り子 大山 定一訳 昭三8

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○薔薇 四季 第四一号 同 昭三11

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○恋歌 四季 第四五号 同 昭三3

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○墓碑銘 四季 第四六号 同 昭三5

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○無題 四季 第三卷三号 同 昭三4

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○リルケ詩抄(十篇) 尾崎 喜八訳 昭三5

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○恋する女 世界文学 第一号 岸田 晩節訳 昭三4

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○癖る人 学海 第二卷八号 高安 国世訳 昭三12

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○夕立の前 詩聖 第二一号 田内 静二訳 昭三6

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○詩五篇 窓 第一号 富士川英郎訳 昭三5

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○窓 文芸 第二卷一、二号 堀 辰雄訳 昭三12

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○手帖(野田書房)第六号 昭二4

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○晩夏(甲鳥書林) 昭二6

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○〇仏蘭西詩集(村上菊一郎編) 昭二9

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○〇(青磁社) 昭二1

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○手帖(野田書房)第六号 昭二4

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○晩夏(甲鳥書林) 昭二6

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○〇(青磁社) 昭二1

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○純白の幸福(人文書院) 昭三10

○ 鷗外全集 翻訳篇第10巻 昭二四3
○ 同 第二巻 昭元10
○ 同 第七冊 笹沢 美明訳 昭六4
純白の幸福 大山 定一訳
○ 現代世界文学全集(新潮社)6 昭六1
○ 純白の幸福(人文書院) 昭元10
白い幸福 高安 国世訳 昭三7
○ リルケ選集(創元社)第六巻 昭三7

○ 聖なる春(タウイット社) 昭元5
聖母像 大山 定一訳 昭元10
○ 純白の幸福(人文書院) 昭元10
Einig.
和 解 吳野 潮音訳 大ニ6
心の花 第一八巻二号
一致 茅野 齋々訳 大四五
アルヌ 美明訳 昭六4
一致 詩と詩論 第七冊 昭六4

和 心 大山 定一訳 昭元10
○ 現代世界文学全集(新潮社)6 昭元10
○ 純白の幸福(人文書院) 藤原 定訳 昭三6
すべてを一者に
○ 愛と死の歌(角川文庫) 昭三6
Der Apostel. 1896.
使 徒 高安 国世訳 昭元7
○ リルケ選集(創元社)第六巻 昭三6
○ 愛と死の歌(角川文庫) 藤原 定訳 昭三6

使 徒 藤原 定訳 昭三6
○ 愛と死の歌(角川文庫) 昭三6
Leise Begleitung-Generationen.
1898.
ひそかな同伴 高安 国世訳 昭元7
○ リルケ選集(創元社)第六巻 昭元10
ひそやかな同伴者 大山 定一訳 昭元10
○ 純白の幸福(人文書院) 昭元10
Zwei Prager Geschichten. 1899.
二つのプラーク物語 菊池 栄一訳 昭元4
○ 愛と死と折り(白水社) 昭元4
○ 同 (角川文庫) 昭三1

Wladimir, der Wolkenmaler. 1899. (研究)
雲の画家ウラジミール 笹沢 美明訳 昭四9
詩と詩論 第五冊 昭四9
雲の画家ウラジミール 高安 国世訳 昭六7
○ リルケ選集(創元社)第六巻 昭六7
○ 純白の幸福(人文書院) 昭元10
Geschichten vom lieben Gott.
1900.
愛らしき神様の話 久保 正夫訳 大ニ2
スバル 第五年二号 大ニ2
○ 愛する神の話 星野 慎一訳 昭六7
春陽堂(世界名作文庫) 昭六7
○ 神様の話 同 上
○ 世界文学全集(河出書房)14 昭三6
○ 神の話 菊池 栄一訳 昭元10
弘文堂(世界文庫) 二〇九頁 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10

○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10

○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10

○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10

○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10

○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10

○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10

○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10

○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10

○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10

○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10

○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10

○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10
○ 神さまの話 同 上
白水社 三九頁 四六判 昭元10

最後のひと 菊池 栄一訳

○愛と死と祈り(白水社) 昭元4

○同 (角川文庫) 昭三一

末裔の人 山下 肇訳

○聖なる春(タウイッド社) 昭元5

最後の人々 大山 定一訳

○純白の幸福(人文書院) 昭元10

最後の人々 藤原 定訳

○愛と死の歌(角川文庫) 昭三6

Der Drachentöchter. 1902. 高安 国世訳

竜を討つ男 菊池 栄一訳

竜退治 栄一訳

○愛と死と祈り(白水社) 昭元4

○同 (角川文庫) 昭三一

竜を討つ男 山下 肇訳

○聖なる春(タウイッド社) 昭元5

Der Totengräber. 1903. 高安 国世訳

墓掘り 菊池 栄一訳

○リルケ選集(創元社)第六卷 昭元7

墓掘り 栄一訳

○愛と死と祈り(白水社) 昭元4

○同 (角川文庫) 昭三一

墓掘りと少女 山下 肇訳

○聖なる春(タウイッド社) 昭元5

墓掘り人 大山 定一訳

昭森社 二二頁 A 6 昭元1

四季社 昭元1

旗手クリストフ・リルケの愛と死の歌 堀 辰雄訳

高 原 第一輯 昭三8

○薔 薇(角川書店) 昭三6

○堀辰雄全集(新潮社)第四卷 昭元9

○リルケ選集(新潮社) III 昭元12

旗手クリストフ・リルケの愛と死の歌 藤原 定訳

○愛と死の歌(角川文庫) 昭三6

Aus dem Traun-Buch. 1907. 堀 辰雄訳

夢 第七夜 昭二1

四季 堀 昭二1

○絵はがき(角川書店) 昭二1

○現代世界文学全集(新潮社) 6 昭二1

○リルケ選集(新潮社) III 昭元12

○堀辰雄全集(新潮社)第五卷 昭三3

夢の本より 第三二、三夜 山下 肇訳

○聖なる春(タウイッド社) 昭元5

〃夢のノートから 第七、二、三夜 大山 定一訳

○純白の幸福(人文書院) 昭元10

○愛と死の歌(角川文庫) 昭三6

夢の本 第七、二、三夜 藤原 定訳

○愛と死の歌(角川文庫) 昭三6

Eine Begegnung. 1907. 大山 定一訳

犬一或る邂逅 昭元1

マルテ・ロオリッツ・ブリッゲの手記 堀 辰雄訳

四季 第一一三号 昭九10

○堀辰雄全集(新潮社)第六卷 昭三8

マルテ・ラウリッツ・ブリッゲの手記から 富士川英郎訳

エルンテ 第八卷一号 昭二3

蕩児「マルテ・ラウリッツ・ブリッゲの手記」から 同 昭三1

コギト 第六八号(七の一) 昭三1

○マルテ・ラウリッツ・ブリッゲの手帖 大山 定一訳

白水社 四二頁 四六判 昭二10

○マルテの手記 同 昭三上

白水社 三九頁 B 6 昭三2

○現代世界文学全集(新潮社) 6 昭元1

(新潮文庫) 三三頁 A 6 昭元9

(白水社世界名作選) 二九頁 昭元3

○リルケ選集(新潮社) III 昭元12

○マルテの手記 望月 市恵訳

(岩波文庫) 三〇頁 A 6 昭三一

マルテの手記 平田次三郎訳

○世界の文学(実業之日本社) 昭三

○マルテ・ラウリッツ・ブリッゲの手記 生野 幸吉訳

(河出文庫) 二五七頁 A 6 昭三8

○世界文学全集(河出書房) 14 昭三6

(研 究)

リルケと現代「マルテの手記」を中心として 秋山六郎兵衛

福岡商大論叢 第六卷一号 昭三5

「マルテの手記」解説 大山 定一

○マルテの手記(白水社) 昭四10

○リルケ雑記(創元社) 昭三10

○マルテの手記(養徳社) 昭三2

○リルケの薔薇(創元社) 昭三9

○マルテの手記(新潮文庫) 昭元6

○マルテの手記(白水社) 昭元3

愛の書「マルテの手記」について、リルケの恐怖「マルテの手記」を中心に、「マルテの手記」をめぐって—フランス文壇とリルケ 評論 笹沢 美明

○リルケの愛と恐怖(宝文館) 昭元10

「マルテの手記」についての覚書 高橋 重臣

天理大学学報 第一八輯 昭三10

マルテ・ラウリッツ・ブリッゲの道 武田 昌一

カスターニエン 第九冊 昭九12

マルテの手記 茅野 蕭々

帝国大学新聞 昭四

ジャム・君の家に 堀 辰雄

○薔 薇(角川書店) 昭元6

○堀辰雄全集(新潮社)第四卷 昭元9

マルテの世界 矢内原伊作

花 冠 第二集 昭元1

リルケ「マルテの手記」について 同 上

○文学と人生の間(東和社) 昭三6

マルテの手記について 同 上

同時代 昭三7

マルテの手記 山室 静

学内報

臨時評議員会

学校法人關西大学寄附行為第十八条第三項に基いて、二月九日(土)午後二時より天六学舎において、臨時評議員会を、新年交礼会を兼ねて、開催。

各種委員会の設置並びに委員委嘱に関する件、評議員会議事規則及び委員会規定の制定に関する件につき審議した。

出席者(五十音順 敬称略)

- 明石三郎 阿部甚吉 池田信之助 今井康兼 岩佐清三郎 岩崎卯一 植野郁太 浦野健二郎 江里口春志 越智比古市 大小島真二 大島武夫 榎本信雄 勝島芳松 桂忠雄 門上敏夫 神宅賀壽恵 齋川喜一 川口勇 河村宜介 小寺小市郎 河野稔 小林巖 白川朋吉 関豊馬 高垣善一 竹澤喜代治 竹下百馬 千巖克郎 寺西武戸根泰雄 中石清一 中務平吉 中山幸市 長尾昇 長柄金吾 浪江源治 西尾専太郎 西本寛一 野原秀泉 東浦榮一 久井忠雄 平井三朗 深川實福島四郎 本多喜慶 堀正人 三島律

- 夫 水谷揆一 宮崎平 三好萬次 村尾静明 森川太郎 八百村稔 矢口孝次郎 矢口家治 矢野文雄 横田健一 吉富二郎 脇野徳三郎 渡辺正人

国家試験合格者懇談会

昭和三十一年度司法修習生、公認会計士補の試験合格者を囲んで懇談会が一月二十四日(木)天六学舎理事會議室で行われた。

なお合格者は左の通りである。

司法修習生

- 繁田リヨ子 (学一法・昭27年卒)
- 荒木 宏 (学二法・昭29年卒)
- 長谷 喜仁 (学二法・昭30年卒)
- 公認会計士補 岡本 幸一 (学一法・昭21年卒)

海外の大学より

「経済論集」

ニ—ヨーク公共図書館へ

この程ニューヨーク公共図書館(The New York Public Library)より本学経済学会へ機関誌「關西大學經濟論集」の寄贈方を依頼して来たので、バックナンバアを揃えて寄贈し、爾后図書交換を行うこととなった。

昭和三十三年年度

特別奨学生

昭和三十年より大学は社会の必要とする人材を教育すべきであるとの趣旨に基き「特別奨学制度」をもうけ、実施されて三年目を迎える本年も全国各

都道府県教育委員会の多いなる協賛を得て優秀な学生の推薦をうけ、入学を許可し在学中は授業料その他を免除して、勉強にいそしませることになった。なお昭和三十三年年度特別奨学生は次の教育委員会の推薦を受け左の通り決定した。

入学許可
学部名

推薦教育委員会名

被推薦高等学校名

法学部(一部)

奈良県教育委員会	奈良県立御所高等学校
兵庫県教育委員会	兵庫県立兵庫高等学校
島根県教育委員会	島根県立三刀高等学校
佐賀県教育委員会	佐賀県立佐賀高等学校
山梨県教育委員会	山梨県立市川高等学校
長野県教育委員会	長野県立野沢北高等学校
香川県教育委員会	香川県立丸亀高等学校
大阪府教育委員会	大阪府立高津高等学校
栃木県教育委員会	栃木県立鹿沼農商高等学校

學生

学友会

昭和三十一年度学友会は種々の問題や行事を熱意をもつて行つて来たが、最後の行事たる昭和三十一年度学友会役員の選挙を行い次の如く決定、又体育文化会、学術研究会の昭和三十一年度役員も次の如く決定した。

学友会役員

委員長	山本 健一 (法・四)
副委員長	藪中 健次 (法・四)
総務部長	和田 安英 (商・四)
会計部長	津田 孝次 (経・四)
書記長	妹尾 嘉公 (商・四)
調査部長	雑喉 雅夫 (法・四)
報導部長	村上 良臣 (法・三)
法学部部長	川口 昭一 (法・三)
文学部部長	川口 浩 (文・四)
経済学部部長	未 定
商学部部長	未 定
学内部長	未 定
体育会役員	
部長	真鍋 弘 (法・四)
副部長	中村 博 (法・四)
	松田 雅良 (経・四)

會計 宝田 重幸 (法・四)
 渉外 吉田 宗弘 (商・四)

総務 妻鹿 吉宏 (経・四)
 渉外 片岡 胤一 (法・四)
 會計 和田 強 (商・四)
 井関 吉郎 (法・三)

学術研究会 部長 広瀬 真信 (法・四)
 會計 八尾 宏 (法・三)

育英会の奨学生決定

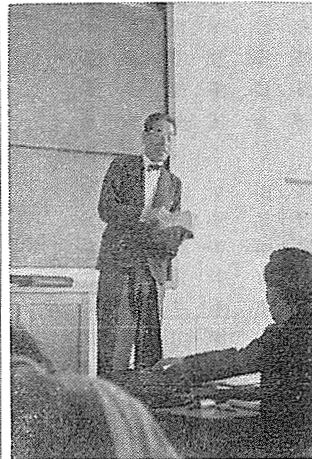
昭和三十一年度育英会の奨学資金（第一次し号）の採用が決定、本学から左記の通り三十五名が採用されたが、なお本年度より採用基準が全国的に厳しくなつてゐる。

一部	(法一) 原口真一 橋本宗一 塩野治雄 林孝 本井謙次 高橋須平 藤本学 池村辰彦 上間幸治 中井 広
(文一)	畑 利治
(経一)	梅田耕二 岩崎信弘 大谷豊一 石田広 昭 西野純郎
(商一)	明角清重 村山都志夫 山本正成 山根 困夫
二部	(法一) 田中精一 水田吉実 岩崎憲次 平尾求 鎌田侃 中村良介 木村雅敏 萩原唯士 新村昌平 吉田八仁 (文一) 碓石物子 (経一) 広畑朝郎 菅谷晴之 (商一) 清水力也 岡村思一

故中村良之助氏を悼む

一、御空に輝くりよう爛の
 北斗の星にあこがれつ
 久遠の理想を高く求め
 辿る天路の草枕
 行く若人の假ねにも
 まどろむ夢の清きかな
 二、紺碧深き海洋の
 底ひ知れず秘められし
 幾層の宝捜すべく
 腕くろがねの丈夫が
 丈余の櫓を舵とりて
 今し船出の朝ぼらけ

という「関西大学学生歌」や「関西大学第二商業学校校歌」等を作曲された中村良之助氏は病氣加療中のところ薬石効なく二月五日大阪市立



ありしひのおもかげ

医大附属病院で胃潰瘍のため逝去された。
 なお氏は明治三十年九月十一日大阪府に生れ、昭和二年関西大学経商学部を卒業し、主としてフランスに留学、フランス地理学終身会員に推された。関大講師、助教、教授、日本輿論新聞社囑託、奈良県立短大教授を歴任し、関大講師、大阪学芸大助教であつた。

野 球 部

二月十一日から十八日まで松葉トレナーの指導のもとに湯本主将以下全員参加して、トレーニングを行い十九日より本格的練習に入り、三月十日九州遠征を行い九州、中国、四國のノン・プロ・野球チームとゲームを行う。

今日の問題研究会

今日の問題研究会では月刊「今日の問題」を発刊した。文学部鈴木祥蔵助教授をはじめ先輩、後輩等おもしろい今日の問題をとらえデューイや再軍備論等について論じている。

昭和三十一年二月二十八日発行

関西大學學報 第三〇〇號

大阪府大淀区長柄中通二丁目一・二番地
 編集兼 久 井 忠 雄
 発行人 久 井 忠 雄
 大阪府北區川崎町三八

印刷所 株式会社 ナニワ印刷所
 電話(35) 七二七一番
 (35) 七二八〇番

發行所 大阪府大淀区長柄中通二丁目
 関西大學學報局
 電話(瑞川) 35 二〇七二番
 振替 大阪 二六七二番



校 友 パ ツ チ

校

友

常 議 員 会

一月二十一日(月)午後六時から大阪郵政会館集會室で四十一名の出席のもとに常議員会を開催。

議題は左の通りであつた。

- 一、副会長連任に関する件
- 二、常議員会運営に関する件
- 三、会費処理の件
- 四、昭和三十一年度校友總會決算報告

熊 本 支 部 定 期 総 会

十二月二日(月)午後三時より料亭「魚かつ」に於て支部長外十一名出席のもとに總會開催。

先づ内田支部長より挨拶があり、次いで内田支部長よりの事業報告及び会計報告の後、吉田評議員の挨拶に次いで評議員会の経過及び母校の現況報告があつた。その後役員改選を行い別記の通り決定。

続いて懇親会に入つたが、遠く母校をしのびながら和氣霽々裡に午後五時解散。

決定役員

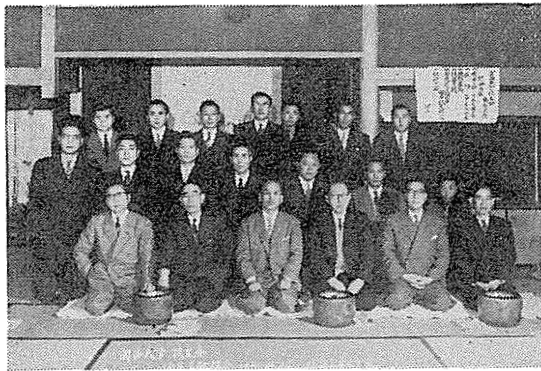
- 支部長 吉田鹿之助
- 副支部長 内田 義信
- 庶務 白石 時吉
- 小泉 博

十 八 会 総 会

一月十八日(金)午後五時から「浪速荘」に於て十八会總會を開催。山脇智氏の司会で会則の審議、会則の一部改正、委員の選出、委員長の互選を行い、委員長には田村徳夫氏が就任し、十八会事務所は委員長の事務所(大阪市北区堂島、堂ビル六階六二二号室)田村徳夫法律事務所内に決定した。田村委員長の提案された母校植樹寄附は全会一致で賛成。本日の欠席者にも呼びかけて早急に申込む事に決定し、午後九時盛會裡に散会した。

出席者(五十音順)

- 祝前善治 榎原武雄 門上敏夫 小山房三 小林金次郎 板原 武田英司 田村智夫 田村徳夫 常友正司 富永宗一(旧姓野村)中井猛 西明進 吉野村直直 広岡英雄 藤井吉郎 福崎月夫 藤岡哲夫 益田即通 山下寿男 山脇智



大 阪 国 税 支 部 総 会

一月十九日(土)午後二時から「大阪税理士会館」に於て久井専務理事、大月校友会長、安井校友課長が出席し開催。各地から遠路参集した会員を迎えて、さしもの大会議室も満員の盛況、議事終了後大月会長の挨拶、安井課長の校友会概況について説明あり、暫時休憩後久井専務より本学の近況報告を行いその隆盛に深い感銘を与えた。宴会に移り談論風発、万歳を三唱して散会したが午後六時であつた。

千 里 山 昭 八 会 総 会

一月二十九日(火)午後六時より平野町「やを政」に於て第四十六回例会を開催。月末のせいか集まる者が少なかつた。幹事から雑件の報告があり、今回は専ら昨秋来欧米各地に調査視察に赴いた岡沢卓郎氏が最近帰来したので、早速出席を強制してまだホヤホヤの旅の珍談奇話を聞くことにした。話中得る処多く誰も一度は行つて見たいなあと云う気持ちになつた西独の内容ある復興振りを聞くと日本人たる者ホヤホヤしておれぬと云う気にもなつた。彼の繰出す失敗談が最も興味を呼んだ。話が一応欧米を一巡

した処で小宴に入つた。アルコールが体内を廻り始めると一層失敗談が続出花を咲かせて実に愉快な数刻を過ぎた。終りに彼の撮影による8ミリ映写を興味深く観賞して午後九時半散会した。

出席者

- 岡沢卓郎 美吉克之祐 中家利国 中村重男 北村文之助 大島武夫 岩田定一郎 田辺卓起 浦野健二郎 結城丙太 中植巻一 斎藤正興 木下忠夫 平井三朗

記念植樹申込者(二月十二日現在)

- 日本生命北斗会 銀杏 一本
- 谷口隆佳(宝塚支部長) 銀杏 一本
- 大阪国税支部 メタセコイヤ七本
- 農林省大阪食糧事務所 関大会 メタセコイヤ二本
- 神戸支部 山桜 二十本
- 匿名氏 山桜 二本

昭和三十一年

校 友 名 簿

昭和28年度版を増補・改訂しました。同窓との親睦連絡にぜひ御利用下さい。

— 収載人員二六、〇〇〇余名 —

B5判 六〇〇頁
実費頒価五〇〇円
(送料当方負担)

申込先 關西大學校友課
大阪市大淀区長柄中通二丁目
振替 大阪 一七八七五番

記念植樹募集

昨秋創立七十周年を記念して施設の拡充を図り、千里山及び天六両学園に近代建築の学舎を完成し得ましたことは洵に御同慶に堪えません。

さて、この構築美に配するに樹木や芝生の景觀美を以てし、造園技術の粋をあつめて、教育環境を形成することは、日々これに接する学生達にあるいは憩いの、あるいは思索の場所を与え、学習研鑽の資となるべく、また、学窓を出でては学舎と共に、一本の樹木にも母校への思慕の情を抱かしめるであります。

かかる教育環境形成の重要性に鑑み、本学では植樹造園につとめたいと存じておりますが、また有志の方々からこの趣旨に御賛同下されて樹木の御寄附にあづかり得ば幸甚に存ずる次第であります。

昭和三十三年三月

關西大學

何卒右趣旨に御賛同を賜りまして、単価表により樹木御指定の上左記宛御申込下さいませ様御願申上げます。

一、樹木単価表

イ、楠	(高さ十尺、巾七尺、太さ目通一尺)壹本一〇、〇〇〇円
ロ、銀杏	(高さ七尺、巾三尺、太さ目通四寸)同 三、〇〇〇円
ハ、南豆ハゼ樹	(高さ八尺、巾五尺、太さ目通六寸)同 六、〇〇〇円
ニ、山桜	(高さ七尺、巾三尺、太さ目通二寸)同 五、〇〇〇円
ホ、ユーカリ	(高さ八尺、巾三尺)同 一、五〇〇円
ヘ、メタセコイア	(高さ四尺一五尺)同 一、五〇〇円

単価表の植栽は送料、植込材工並に根着き迄(枯れた場合は植替)の責任保証となっております

二、記念植樹御申込先

關西大學校友課
 大阪市大淀区長柄中通二ノ一二
 振替口座 大阪 一七八七五番

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
 昭和三十三年二月二十八日発行(毎月一回三十日発行)
 通巻第三〇〇号

關西大學法制史學會 共編
 關西大學經濟學會經濟史研究室

大阪周邊の村落史料

A5判 フランス綴箱入

本書は關西大學図書館に所蔵されている貴重な村落史料のうち、庄屋文書といわれる庄屋の蔵に放置されていた記録を纏めて、法制史及び經濟史は勿論、一般史学やその特殊部門の研究に寄与せんとして公刊されるものである。庄屋文書のなかには、庄屋自身の任命、退役から、触、達、回状、農民の五人組、宗門改、検地、耕作、年貢、水論、新田開発は勿論、田畑建物の売買賃入、奉公人、人身売買、縁組、相続、遺言、往来手形、寺送り村送り等に至るまで、百般の法律行為に関する文書までが保存されているので、近世農民の法律および社會經濟生活はこれらの史料によつて明かになるであろう。

第一輯 (庄屋文書)

二二〇頁 頒価 金四〇〇円

既刊

本輯に選んだのは訴訟に関する書類の多い河州松原村、撰州味舌、耳原兩村の庄屋留書である。

第二輯 (耕肥、拝借銀、頼母子)

一七〇頁 頒価 金三五〇円

既刊

本輯に選んだのは、農耕の基となる肥料と、その購入資金と入手方法に払つた農民の努力と法律關係、および金融、とくに御発起無尽と称せられる藩政頼母子の運営等に関する書類である。

第三輯 (証文集、村役人)

二二五頁 頒価 金四〇〇円

既刊

(なお御入用の方は大學出版部へ直接御注文下さい)

發行者 關西大學
 發售所 關西大學出版部
 大阪市大淀区長柄中通二丁目